

佐沼高等学校

校訓 至誠・「献身・窮理・力行」



1 基本データ

創立：明治35年
課程・学科：全日制課程・普通科
生徒数：671名
所在地：〒987-0511
登米市迫町佐沼字末広1番地
TEL：0220-22-2022
FAX：0220-22-2023

ホームページアドレス：
<https://sanumamyswan.ed.jp/>
代表者電子メールアドレス：
sanuma@od.myswan.ed.jp
主な交通機関：
JR東北本線「瀬峰駅」下車→登米市市民バス南方線佐沼方面行き乗車（35分）
→「佐沼高校正門前」下車 徒歩1分
JR東北本線「新田駅」下車→登米市市民バス新田線佐沼方面行き乗車（21分）
→「佐沼高校北」下車 徒歩2分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

『佐高で咲こう』

プラス思考と積極的挑戦を意識した『積極的なチャレンジの機会を求めよ！』をスローガンに、「咲こうとする意志・意欲」の結晶として自分たちの夢の実現のために、佐高で新しい歴史を創っています！

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

本校は県の北部、登米市の農業及び商工業の中心地である迫町にあります。近くには白鳥やガンの飛来地として有名な伊豆沼があります。本校は、明治35年旧制宮城県第二中学校の登米分校としてスタートしました。その後独立して大正8年に佐沼中学校と名前を変え、昭和23年には現在の名称である佐沼高等学校と改称するとともに、男女共学の学校となりました。昨年度120周年を迎えた伝統のある学校であり、27,000名を超える卒業生が、各界で活躍しています。

(2) 教育方針

校訓の「『献身・窮理・力行』の三徳を至誠をもって貫く」の教えと校是の「文武両道」を大切に、21世紀の国際社会を生き抜くことができる英知、健全な心身を持った徳性の高い人物を育成することを教育目標としています。

また、伝統として人格の陶冶と学問の探究を校風としており、常に高い学力の獲得と豊かな個性をもった生徒の育成に努めています。さらに、拠点校として、地域の教育力向上に貢献しています。

これらの目標を実現するため、以下の取組を行っています。

- ・数英特別講習会
- ・Sanuma Summer University
(大学教授による出前授業)
- ・中高連携事業
- ・総探発表会

(3) 教育課程の特色

進路目標達成を視野に入れた授業づくりをしています。特に、多くの生徒が希望している国公立大学進学へ重点をおいた内容となっています。

1年次：基礎学力の養成（国語・数学・英語の重点的な指導）

2年次：類型制（文系と理系）による進路目標達成に向けての早期取組

3年次：具体的な進路に応じた科目選択
授業は50分の7時間（月・金曜日は6時間）で思考力の向上をはかり、「自律的学習者」の育成を目指しています。

総合的な探究の時間は、地域人材・地域資源をはじめ国内外との連携を意識し、地域課題研究・学問研究・進路プランニング・小論文指導など、3年間の系統的な指導を行っています。

新1年生には、学習の仕方、高校生活の概要等についてオリエンテーションを行っています。

(4) 行事・生徒会活動・部活動

学校行事は、ダンスフェスティバル、佐高祭、スポーツフェスティバルなどがあり、生徒による主体的な運営がなされています。生徒会活動そのものも活発に行われています。

部活動も盛んであり、令和4年度は、陸上競技部男子棒高跳、ボート部女子ダブルスカルがインターハイに、美術部が全国高等学校総合文化祭に出場しました。また、柔道部男子個人60kg級、水泳部男子100m背泳ぎ、女子100m平泳ぎ、陸上競技部男子棒高跳、女子七種競技、ボート部男子ダブルスカル、舵手付クォドルプルで東北大会出場を果たし、ボート部女子は東北大会で総合優勝を果たしています。さらにボート部男子ダブルスカル、舵手付クォドルプル、女子シングルスカル、ダブルスカル、舵手付クォドルプルは県新人大会を制して東北大会に出場し、女子舵手付クォドルプルは全国選抜大会に駒を進めました。

県総体ではラグビー部が第2位、剣道部女子団体が第3位となり、団体競技においても目覚ましい活躍をみせています。

県新人大会では、前述のボート部男女以外でも陸上競技部男子3000m障害、棒高跳の2選手が好成績を収め、東北大会に出場しました。また、ラグビー部、剣道部女子個人、バスケットボール部女子の各競技、選手が上位入賞を果たしました。

大会成績のみならず「何事にも真摯に取り

組む人物の育成」という本校の教育目標に相応しい活躍を見せました。

(5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R4	R3	R2
国公立大学	37	37	35
国公立短大	1	1	1
私立大学	119	114	102
私立短大	8	6	12
専各学校	43	39	43
就職	16	17	15
その他	9	14	13
卒業生計	233	228	221

主な進路先(令和5年3月卒業・75回生)

()内は人数 (1)は省略

<国公立大学>

東北大学、宮城教育大学(3)、北海道教育大学旭川校、岩手大学(9)、秋田大学(3)、山形大学(3)、千葉大学、新潟大学、富山大学、金沢大学、宮城大学(3)、釧路公立大学、青森公立大学、岩手県立大学(4)、秋田県立大学、福島県立医科大学(看護)、会津大学、都留文科大学

<私立大学>

東北学院大学(34)、東北福祉大学(12)、東北工業大学(6)、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学(10)、尚絅学院大学(3)、仙台大学、東北文化学園大学(6)、石巻専修大学(5)、岩手保健医療大学、医療創生大学(2)、文教大学、専修大学、東海大学、日本大学、法政大学、他

<専修各種学校>

石巻赤十字看護専門学校、気仙沼市立病院附属看護専門学校、仙台医療センター附属仙台看護助産学校、J.R東京総合病院高等看護学園、他

<就職>

宮城県職員[学校事務]、宮城県警察、登米市[行政](8)[消防]、国家[一般職]、自衛官
JR東日本、他

3 学校魅力発信

(1) 本校生徒の活躍

ラグビー部東北新人大会出場

県新人大会でラグビー部が準優勝を果たし、令和5年2月8日～11日に石巻市で行われた東北新人大会（Ⅱ部）に出場しました。積雪の影響により決勝戦は中止となりましたが、県外の強豪校を相手に最後まで戦い抜き、見事両校優勝を果たしました。



部長 藤原 陵介さん（南方中出身）からのコメント

2年生4名、1年生13名という少人数でも最後まで戦い続けたのは、監督やマネージャー、OBや保護者の方々の支えがあったからです。その方々へ、東北大会Ⅱ部優勝という恩返しが出てよかったです。次の目標は東北総体出場です。東北大会の舞台でも勝利し、最終目標である「花園出場」につながるような良い経験をしたいです。

ボート部全国選抜大会出場



東北選抜大会で舵手付クオドルブルが第3位入賞を果たし、令和5年3月18日～21日に静岡県天竜ボート場で開催された第34回全国選抜大会に出場しました。全国大会では準決勝に進出しました。

部長 久保田 夏奈さん（若柳中出身）からのコメント

高校からボートを始め、切磋琢磨し何度も壁を乗り越えてきた仲間とともに、全国選抜という大舞台に立てたことを嬉しく思っています。全国レベルの選手との戦いは、自分たちの短所だけでなく長所も知ることができた実り多いものとなりました。全国選抜で得られた経験を活かし、インターハイでは上位入賞を目指していきたいと思えます。

美術部全国総文祭出場

美術部3年の五十嵐望美さんが第75回宮城県高等学校美術展で優秀賞を受賞し、令和5年7月29日から鹿児島県で開催される第47回全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）美術・工芸部門への出品が決定しました。

「Rabbit's Astronomical Institute」→



五十嵐 望美さん（中田中出身）からのコメント

私は今回、自分の手で自分だけのミニチュアハウスを作りたいという思いから初めての立体作品に挑戦しました。制作した半年間は苦戦することが多く、自分との戦いの日々でした。しかし、創意工夫のもと自分が表現したかったものを作り上げたこと、全国総文祭に出品できることに大きなやりがいと喜びを感じています。今後も様々な作品制作に挑んでいきたいです。

(2) 学校三大事

ダンスフェスティバル

1年生から3年生までの縦割りで、校訓でもある献身、窮理、力行の各団に分かれて覇権を競い合います。全員ダンス部門、有志グループが演じる代表グループ部門、事前に撮影したものを上映する映像部門があります。



佐高祭



昨年度は、自然科学部の研究発表や吹奏楽部、文芸部によるステージ発表等が行われ、校舎内でも黒板アートやアニメ・映画の世界を体現した教室装飾、縁日を模した出店などバラエティに富んだ出し物がありました。今年度は、飲食販売の模擬店や地元商店街とのコラボ企画、クラス対抗神輿パレードも復活するかも!?

スポーツフェスティバル

2クラス合同の計9チームで佐高杯を争います。昨年度は、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、ドッジボール競技が開催され、チーム一丸となって大いに盛り上がりました。閉会式時に行われる、全校生徒が肩を組んでの校歌斉唱は圧巻です。



(3) 学校制服紹介

昔ながらの学生服で、男子は黒の詰め襟服、女子は紺色制服を着用することが義務付けられています。創立時から100年以上の歴史を持っています。

夏場や授業時には、「Sanuma」の頭文字「S」のイニシャルが入ったベストやセーターの着用も認められています。

男子は校章の図案が入った金色のボタンが特徴的です。女子は学年が上がるにつれて黄、緑、赤と変わる胸章やリボンがポイントです。2020年4月から女子のスラックスも導入されました。



(4) 施設紹介

2021年6月に新体育館、2022年10月にテニスコートが完成。授業や部活動で大いに活用されています。体育館には地元産の木材がふんだんに使用され、木の温もりが感じられる開放感ある構造となっています。



現在、仮設校舎での生活を余儀なくされていますが、全ての教室にエアコン及び電子黒板が完備されており、充実した教育環境が整っています。新校舎は2025年度に完成予定です。

4 在校生からのメッセージ

生徒会長 千葉 雄翔さん（南方中出身）からのコメント

本校では「文武両道」を掲げ、勉強にも運動にも全力で取り組んでいます。何事も一生懸命にやりたい人にぴったりの学校です。また困ったときや迷ったときには、同級生や先輩後輩、先生方が手を差し伸べてくれます。たくさんの人と助け合い、笑い合い、毎日の高校生活がかけがえのない思い出となることでしょう。皆さんの入学を建設中の新校舎とともにお待ちしております。

応援団長 鈴木 倫也さん（佐沼中出身）からのコメント

本校は現在仮設校舎での生活を余儀なくされていますが、各教室に冷暖房が完備されており、快適な学校生活を送ることが出来ます。それに加えて部活動も盛んであり、東北大会に出場する運動部も多数あります。個性豊かな先生方や登米市全域及び近隣地域からの進学者がいる本校で、新たな道、そして「未見の我」を求めて入学してみませんか。佐高で咲こう!